

誰もが知りたい
ローザンヌ宣教シリーズ

No. 6
中国人への伝道



*Let
the Earth
hear
His Voice*

**Lausanne
Occasional
Papers**

No. 6
Thailand Report-

**Christian Witness
to the Chinese People**

Lausanne Committee for World Evangelization

関西ミッション・リサーチ・センター/日本福音同盟

誰もが知りたい

ローザンヌ宣教シリーズ

№ 6

中国人への伝道

ローザンヌ宣教シリーズ

邦訳出版の経過

1974年7月、景勝の地、スイスのレマン湖畔ローザンヌで開かれた世界宣教国際会議（ICOWE）は、まさに、近代における宣教の歴史にとって、画期的な意義深い会議となりました。

勿論、世界150カ国から、約4,000人近いキリスト教指導者達が集まって、10日間にわたり、祈りのうちに、宣教大命令について、共に考え、学び、論じ合ったということだけでも、実に特筆すべき事柄であったと思います。

しかし、そこにとどまらず、この会議の後、継続委員会——現在では、それが発展して、70名に及ぶ委員によって構成されるローザンヌ世界宣教委員会（LCWE）となっている——が設置され、今日まで、10年間にわたって、世界宣教や伝道の諸問題を、あらゆる角度から、深く掘り下げ、それぞれ、神学、戦略、コミュニケーション、禱告という分野において、その活動を継続的に推進してきているということは、大いに評価されなければならないことであります。

かく云う筆者も、過去6年間、この委員会の末席を汚させていただき、実行委員の1人としてご奉仕させていただいたのでありますが、LCWEは、特定の団体や組織や教派にかたよらず、あらゆる福音主義者を結集して、世界大の宣教のわざにあずからせることを目的に、今日までその運動を展開してきました。そのよって立つところの信仰的基準は「ローザンヌ誓約」です。これは、世界における福音宣教ということ、単に垂直的にとらえるだけでなく、文化及び社会を、巾広く、グローバルにとらえながら、全人的な救いということ、宣教論的に志向している、現代の福音主義の立場を代表しているものです。

具体的にどのような活動が展開されてきたのかと云いますと、国や地域毎に開かれた伝道会議、特定のテーマをかかげて開かれた研究協議会（コンサルテ

ーション)、さらには、種々の大会などをあげることが出来ます。LCWEでは、こうした会議や会合の成果を、出来るだけ広く、そして草の根レベルの教会や信徒にまで及ぶようにと、ローザンヌ宣教シリーズ(LOP)と銘打って、現在まで24冊に及ぶ報告書を出版してきました。

早くから、英文で出されたこのシリーズの邦訳をと願いつつも、仲々その機会を見出せずにいたところ、関西ミッション・リサーチ・センターの前理事長服部嘉明先生と理事の先生方のご理解とご支援をいただき、また日本福音同盟の全面的な協力を得て日本語で紹介することが出来るようになり、既にそのうち何冊かが出版されております。私達は、このような有意義な企画が、愛する祖国、日本の諸教会に連なる多くの教職・信徒の方々にとって、時宜を得た、しかも大いに有益なものであることを確信いたしまして、今後も、残りのシリーズの出版に鋭意努力していく所存であります。

もとより、関西ミッション・リサーチ・センター(KMRC)は、その創設当初より、日本という文化と社会の中にありながら、世界的な視野を持った福音主義の宣教研究所として存続してきており、このシリーズの出版だけをもって事足りりとしているわけではありません。しかし、その活動の一環として、この事業を手がけることが出来たことを、主に心から感謝するものです。

どうか「誰もが知りたい」この宣教シリーズを、よくお読み下さり、また宣教に重荷と関心を持つ教友に是非お勧め下さい。

終わりに、このシリーズの邦訳及び出版権を許可して下さったローザンヌ世界宣教委員会と、このシリーズの出版に全面的に協力して下さった日本福音同盟、また側面から支援して下さったノールウェー・ルーテル伝道会に心から感謝の意を表わします。

1984年7月6日

関西ミッション・リサーチ・センター(KMRC)

理事長 古 山 洋 右

は じ め に

この報告「中国人への伝道」は「誰もが知りたいローザンヌ宣教シリーズ」の一つで1980年6月16日から27日までタイのバットヤで開かれた世界宣教協議会の中の「中国人への伝道」分科協議会（トーマス・ウォン議長）で討議された内容をまとめたものである。報告の内容は分科協議会全参加者による草稿やさらに修正した報告をもとにしたもので、その他に、より広い形の会議で意見を聞き参考とした。しかし、すべての文責は分科協議会と議長にあることを付記しておく。この記録はこの小会議から生まれた質の高い有益な報告といえる。

世界の中で最も人口の多い地域の伝道に重荷を持つ教会とメンバーが力づけられるよう祈りと期待をもってこの報告を送り出す。

(International Co-ordinator: Rev. Thomas Wang,
CCCOWE, P.O. Box 98435, Tsim Sha Tsui, Kowloon Hong Kong)

目 次

序 文	1
1. 中国人の福音に対する拒絶の諸要素	4
a 中国の歴史的諸要素	4
b 文化的諸要素	6
c 宣教学的諸要素	7
2. 大陸に住む中国人への伝道	9
a 現政府の宗教に対する姿勢	9
b 中国人の福音に対する受容	10
c 中国の教会の状況	13
d 海外からの現在の伝道	20
e 中国伝道の論点	22
f 目標と方策	24
3. 海外に住む中国人への伝道	28
a 現在の状況	28
b 全体的展望	29
c 目 標	33
d 大陸の外に住む中国人への伝道戦略と実行	33
e 海外の中国人教会の大陸伝道への参加	38
4. 方策と実行	38
a 祈 り	38
b 中国人留学生との接触	39
結 論	40
付 録	
A 中国における伝道の過去と現在	41
B 1980—84 年の中国の教会（訳者あとがき）	42
C 中国伝道に関する参考文献	46
D 「中国人への伝道」分科協議会参加者	49

序 文

中国人は単一民族としては世界最大であり、その五千年以上にもわたって続いている悠久の文明はねばり強く柔軟である。

しかし、その長い歴史にもかかわらず、主にして父なる神と、救い主イエス・キリストは彼らにとってほとんど未知の存在であった。確かに、ある時期に、ある人々が真の生ける神を知ったことはあったが、悲しいことに様々な理由から、大部分の人々はイエス・キリストの名すら知らず、救われることがなかった。

7～9世紀頃といえば、中国文明があらゆる面でヨーロッパ文明をしのいでいた時期であるが、この唐の時代に、ユダヤ教の会堂も建てられ、ネストリウス派（景教）キリスト教徒の商人たちが中国全土に散らばっていた。また、13世紀になると、蒙古人が支配する元の時代に、フランシスコ会が大陸沿岸で宣教し、16～17世紀にはイエズス会がこの働きを受け継いだ。しかし、これらローマ・カトリック教会の宣教は単発的で、大衆に霊的恵みを持続して与えていくことはできなかった。

中国大衆の間に教会が真に根づき始めたのは、19世紀以後であり、この頃から、プロテスタントと再編成されたカトリック宣教団が大挙して中国伝道を開始した。それでも、まだ、中国人にとって教会とは自分たちのものというよりも西洋文化の代表者という感が強く、その意識が次第に後退していくのは日本軍が中国北部に侵略を開始した1937年以後であった。これ以後に、数多くの中国人指導者が起され外国人宣教団のあとを引き継ぎ、自分たちで教会を開拓するようになった。この強力な中国人指導者達の影響で、次の世代は1949年の革命以後に経験することになった苦難を乗り切る備えをしたのであった。

革命以後、30年、中国大陆に住む人々はこの間、ずっと革命的熱情の中で苦役に満ちた激動の日々を味わわなければならなかった。そして人々は、これら長かった試練の時を経て、次第に革命の大義名分と社会操作に失望し始め、毛沢東主義のまき散らす勝利感から覚めていった。今日、国家の目標は「四つの近代化」と呼ばれているものへと変型し、その中味は、結局、総力をあげて経済成長を達成し軍事力を充実することにほかならない。

中国の教会についてふれる時、その革命以後の歴史は特に神の明白な摂理の中にあったといわざるを得ない。1951年までに、国家によって西洋人宣教師が退去を命じられた事も神の御手の中にあった出来事である。また神は、教会がかつての西洋との関係を断ち切れ、国家権力の下に従属する事をも見ておられた。そして、多くの人々が信仰の故に苦難を受け、獄中で殉教をしていく人々も少なくなかった。

あの文化大革命の時期、この全土にわたる抑圧の事実を見誤り、それを神の国の到来による新しい政治秩序の出現と見なす神学者たちもいた。しかし、キリスト教信仰とは相容れないとして拒否した人々もいた。

時が流れる中で、世界のクリスチャン達は次第に中国内部で何が起っているのか、状況がつかめず、ただ、祈って待つ以外にすべがなくなった。「海外宣教団の働き、中国人指導者による働き、これらはすべて無に帰してしまったのであろうか？」このような疑問が多くの人々の胸に持ち上がった。そして、この答が与えられるためには30年以上も待たなければならなかったのである。

今日、このバツヤ会議で、我々は喜んで次のように報告することができる。中国で公同礼拝に対し政府の規制が緩和された。そして、中国で、何万、何十万というクリスチャンがイエス・キリストは唯一の主であると告白し、教会が生き生きと成長していることを、我々は今、知ったのである。

中国本土の外にいる4千万人の中国人に対しても、神は大陸とは別の形で働

いておられた。来るべき日のために神の国の中で然るべき役割を果たせるよう彼らをさまざまな分野での働き人として整えられていたのである。彼らはキリストのメッセージにすみやかに応答するものとされ、彼らの属する教会は世界80ヶ国にも及んでいる。そして、我々は、ここ数年の間に、大陸の苦難の教会を通して神がその栄光を表わされたことと、他の国に住む中国人教会の成長には密接な関係があることを信じるのである。

また同時に、中国の教会は大陸本土の内も外も、客観的に分析され研究されなければならない問題をたくさん抱えている。中国人クリスチャンは今後も、活力ある方策を神の導きの中に求め、西洋や第三世界の教会と協力して、その最終的目標へ向って努力していかなくてはならないだろう。

我々の当面の課題は中国本土の内と外にいる全中国人への伝道である。我々の判断によるなら、今は、歴史上これまでなかった程に、中国人がキリスト者として刈り獲られていく時代に立たされている。しかし、さらに大きな課題として、最終的には、神が、中国人教会を、この時代の福音の空白地帯に福音を宣べ伝える器として用いて下さることを願うのである。